

平成 24 年度第 1 回陸上掘削部会執行部会

日時:2012 年 8 月 2 日(木)13:00~17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 共用会議室 B

出席者(敬称略):

執行部:井龍康文(部会長/東北大学)、小村健太郎(防災科学技術研究所)、
小泉尚嗣(産業技術総合研究所)、公文富士夫(信州大学)、藤原 治(産業技術総合研究所)、
中田節也(東京大学地震研究所)、長沼 毅(広島大学)、
MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)

オブザーバー:伊藤久男(海洋研究開発機構)

事務局:倉本真一、梅津慶太(海洋研究開発機構)

欠席者(敬称略):

廣野哲朗(部会長補佐/大阪大学)

議事次第(案)

1. J-DESC/ICDP および陸上掘削部会のタスク

- J-DESC 及び ICDP の枠組み[事務局].....資料 1-1~1-5、2-1、2-2
- 今年度陸上掘削部会の方針[井龍部会長].....資料 3-1、3-2

2. 報告事項

- SAG 会議@京都[Mori 委員].....資料 4
- EC 会議@バンクーバー[事務局].....資料 5
- 地学雑誌特集号進捗状況[井龍部会長]
- 進行中のプロジェクト

3. 検討事項

- 執行部メンバー補充及び新 SAG 委員選出方針
- 掘削プロポーザル作成・計画実施への支援(経済面以外)
- 今後の具体的な活動について
 - 陸上掘削ワークショップ
 - ICDP ワークショップへの支援(主催者及び参加者)
 - ICDP Science Conference (2013 fall @ Potsdam)への準備

配布資料

- 資料 1-1 J-DESC パンフレット
- 資料 1-2 2012 年度 J-DESC 役員体制
- 資料 1-3 J-DESC 規約
- 資料 1-4 陸上掘削部会規則
- 資料 1-5 J-DESC 正会員種別
- 資料 2-1 ICDP の組織体制とプロポーザルレビュープロセス
- 資料 2-2 ICDP Prospectus
- 資料 3-1 陸上掘削部会 2012 年度活動方針
- 資料 3-2 J-DESC2012 年度予算
- 資料 4 SAG 会議@京都メモ
- 資料 5 EC 会議@バンクーバー報告書

議事録(案)

はじめに事務局より資料の確認がなされた後、委員の自己紹介がなされた。

1. J-DESC/ICDP および陸上掘削部会のタスク

・J-DESC 及び ICDP の枠組み[事務局]資料 1-1～1-5、2-1、2-2

事務局より、資料に基づき標記の件について説明がなされた。

・ J-DESC について

- J-DESC は地球掘削科学に関連する大学や研究機関が集まった研究機関連合であり、IODP や ICDP などの地球掘削科学を推進する。
- 会員数は正会員 54 機関、賛助会員 15 企業
- IODP を推進する IODP 部会と ICDP を始め陸上掘削科学全般を推進する陸上掘削部会から構成されている。
- 役員として、会長藤井敏嗣氏(東京大学名誉教授)、理事機関 13 機関、監査役 2 名。陸上掘削部会の役員として、部会長井龍康文氏、部会長補佐廣野哲朗氏、幹事 5 名のほか、執行部 7 名という構成。
- J-DESC の目的及び活動内容は規約に以下の通り規定されている。

目的:

コンソーシアムは、地球科学を総合的・計画的に推進するため、産官学の研究機関及び組織並びに研究者および技術者の自発的な集合・運営の下、地球掘削科学の推進に係る企画を提案するとともに、各組織等及び研究者等が実施する研究棟の有機的な連携及び効果的な推進を図り、持って地球掘削科学の発展に寄与することを目的とする。なお、コンソーシアムが活動する範囲は、地下から資料やデータを得る掘削という手法が地球システム研究の解明に寄与するすべての科学分野とする。

活動:

- ✓ 地球掘削科学に関する科学計画の検討
- ✓ 地球掘削科学の推進に資する研究基盤の検討
- ✓ 前各号に掲げる事項に関する関係機関への提言
- ✓ 会員等が実施する地球掘削科学に関する科学研究棟の有機的な連携
- ✓ 我が国が主導する統合国際深海掘削計画 (IODP) 及び我が国が参加する国際プロジェクトへの支援及び協力
- ✓ 地球掘削科学に関する内外の関係機関、団体との交流及び協力
- ✓ 地球掘削科学に関する普及啓発の実施
- ✓ 全各号に掲げるもののほか、コンソーシアムの目的を達成するために必要な活動
- 陸上掘削部会の目的及び活動内容は部会規則に以下の通り規定されている。

目的:

部会は、主として陸上掘削に係る科学的な検討・支援及び研究基盤の構築、連携体制の推進を図り、我が国における陸上掘削科学の発展に寄与することを目的とする。

活動:

- ✓ 陸上掘削に関するサイエンスプランの策定
- ✓ 陸上掘削計画の立案と関連機関への実施提案
- ✓ 掘削によって得られた試資料及び情報の保管・活動体制の検討と提案
- ✓ 日本発の陸上科学掘削提案の育成・支援及び ICDP 等への推薦
- ✓ ICDP 科学諮問グループ (SAG) 及び執行委員会 (EC) の日本代表委員に関すること
- ✓ その他 ICDP の国内での運営に関し部会が必要と認めた事項
- ✓ 掘削関連技術に関する情報の交換および掘削・計測技術の開発
- ✓ 陸上掘削計画について産官学の情報・意見交換と連携体制の検討
- ✓ 陸上掘削科学の啓蒙と研究成果の公開
- ✓ 必要に応じて、上記の陸上掘削に関連する事項を検討する委員会・専門部会を設置する

・ ICDP について

- ICDP(国際陸上科学掘削計画)は現在 23 カ国+1 企業+1 組織が参加するプロジェクトで、その国際事務局はドイツにある。
- 主な組織体制として AOG (assembly of Governors)、EC Executive Committee)、SAG (Science Advisory Group)があり、AOG には MEXT から 1 名(柴田企画官)、EC には JAMSTEC から 1 名(倉本)、SAG には Mori 氏(京大防災研)と岩森氏(東工大)が委員となっている。
 - ✓ 岩森氏は任期が満了となったため、後任の選出が必要。
 - ✓ プロポーザル評価プロセスは SAG→EC→AOG の順。
- プロポーザルはワークショッププロポーザルとフルプロポーザル(orドリリングプロポーザル)2つの種類があり、PI (Principal Investigator)ははじめにワークショッププロポーザルを提出し国際ワークショップを開催した後フルプロポーザルを提出することになる。
 - ✓ フルプロポーザルを提出する前にプレプロポーザルを出すこともできるが、これはフルプロポーザルの提出が 1 年遅れるだけで、出す意味が無い(Mori 委員)
- プロポーザルの評価はいくつかのクライテリアで行われる。
- Prospectus for the ICDP(資料 2-2)に ICDP の枠組み等の詳細な事項が書き記されている。
 - ✓ 後ほど事務局より執行部に電子ファイルを送る。
 - ✓ Prospectus 中の Goal に記載のある Key issue の内、”nuclear wastes”が ICDP のウェブページ中の同じカテゴリ(Goal)中には見られず、これは 3.11 が関連しているのかとの指摘が長沼委員よりなされた。これに対し、伊藤オブザーバーより、書いてある方が不自然であり、元々はっきりとした記載はないはずであるから、これは 3.11 とは関係が無いだろうとの指摘があった。
- 国内においては、マッチングファンドを獲得することが難しいため、日本人 PI は他の国に比べハンディキャップを背負っている。
 - ✓ 但し、マッチングファンドは全くゼロというわけではなく、JAMSTEC/CDEX が行っている支援の一部として資金を受けることができる可能性もある(これは JAMSTEC に設置され CDEX が運営している地球掘削科学推進委員会:委員長小川勇二郎氏マターとなっている)。
 - ✓ そのため、執行部はこうしたお金も使えることをアピールしながら、プロポーザル作成をエンカレッジすることも重要な役割の一つである。

・今年度陸上掘削部会の方針[井龍部会長].....資料 3-1、3-2

資料 3-1、3-2 に基づき、井龍部会長より説明がなされた。

- ・ 日本発 ICDP 掘削計画の実現
 - COREF、GONAF、阿蘇カルデラ、地熱掘削など、日本人が PI となっている掘削計画を実現させるための支援を行っていく。
- ・ 陸上掘削部会提案によるコアスクールコースの継続
 - 2013 年 2-3 月頃に産総研でコアスクールを開催予定。
- ・ ICDP 国際 WS への戦略的な参加の支援
 - すでに今年 9/13-17 に開催されるオマーン WS に対して 1 名の派遣を決定している。その他、CPCP(コロラドプラトー掘削計画)等も情報があるため、周辺研究者に呼びかけを行っていく。
- ・ 海外 ICDP プロポーザルへの参加支援
 - 自分でプロジェクトを立ち上げて進めていくのも重要だが、すでにあるプロジェクトに入り込んで参加してもらおうようにするのも執行部の役割の一つ。
- ・ 国内における陸上科学掘削ワークショップの開催と支援
- ・ ICDP 以外の国際共同研究計画として行われている陸上掘削への支援
- ・ 各種陸上掘削広報物の配布促進及び制作
- ・ 日本地球惑星科学連合 2012 年大会における活動
 - 地球掘削科学セッションを開催し、大盛況であった。唯一の反省点は会場が狭かったこと。次回は必ず広い部屋を確保するよう努めたい。

2. 報告事項

・SAG 会議@京都[Mori 委員].....資料 4

資料 4 に基づき、Mori 委員より報告がなされた。

- ・ Lake Challa のワークショップが今年開催される。
- ・ 今年掘削を開始するプロジェクトは 6 つ。
- ・ ICDP の新しい科学計画を策定するためのワークショップが 2013 年に開催される旨が議長より発表された。

➤ J-DESC で ICDP ワークショップへの参加旅費支援の申し込みを受け付けているが、現在までに Lake Challa WS への参加旅費支援申込は無い。

・EC 会議@バンクーバー[事務局]資料 5

資料 5 に基づき、倉本 EC 委員より報告がなされた。

- ・ 今回の EC 会議から東氏から倉本氏に委員が交代になった。
- ・ 議長が交代した。
- ・ インド、オランダ、英国、韓国が新たに ICDP に参加した。
- ・ 議長が各プロポーザルの説明を行い、それに対して委員から意見をもらう形式であった。
- ・ プロポーザル評価結果は資料 5 の通り。
- ・ ICDP がドイツ国内で課税対象になるかもしれないとの問題が浮上したため、今後対応が行われるだろう。
- ・ ICDP のウェブページデザインが新しくなった。
- ・ Science Conference 2013(次の 10 年の ICDP の科学計画を考えるワークショップ)を 2013 年内にドイツのポツダムで開催する予定である。
- ・ ICDP の予算規模が小さくなるのが懸念されているが、会費の値上げ等、特段のアクションは現在のところない。
- ・ ICDP トレーニングコースを、湖沼掘削をテーマとして Lake Ohrid で開催される予定 (EC 会議時点)だったが、Lake Ohrid での掘削計画が遅れているため、開催場所がミネソタ大学に変更されるようである。
- ・ 次回の EC 会議は日本で開催することが決まった。具体的な開催場所等について巡検等も含めて執行部でも検討してほしい。巡検が 1 日、会議が 2 日間。資金は ICDP が負担する。
 - 6 月に IODP-MI の BoG 会議を東北大学で開催予定のため、重ならないようにしていただきたい。

・地学雑誌特集号進捗状況[井龍部会長]

- ・ 9 つの原稿のうち 8 つが 1 回のレビューが終えている。
- ・ 1/3 の原稿が受理に至っている。
- ・ 全体としては順調に進んでおり、年末までには出版される見込み。
- ・ 表紙の写真に掲載する権利がおそらくあるため、インパクトのある写真があれば、今のうちから準備をしていただきたい。

・進行中のプロジェクト

- ・ COREF は予算獲得待ちの状況。
- ・ GONAF は今月中には掘削を開始する。
- ・ JBBP は国際ワークショップを 2013/3/12～仙台で開催。巡検は松川地熱地帯を予定。3 名ずつ IDDP2 (アイスランド地熱掘削プロジェクト)と人材交流を行う予定。IDDP2 のワークショップは 9 月に開催される。

3. 検討事項

・執行部メンバー補充及び新 SAG 委員選出方針

- ・ IODP に比べると陸上掘削部会の仕事量は多くないため、今年度から執行部をダウンサイジングした。
- ・ そのため、各機関や分野等を最低限カバーするように人選しているが、カバーしきれていない部分もある。

- JAMSTEC の研究者が現時点で執行部にいないため、伊藤氏に情報提供等をお願いしている。
- 地熱関連の委員については現在検討中。
- 産学連携という観点から掘削業界の方にも入っていただくのが望ましいが、すぐに選出する緊急性がないため、掘削業界からについては当面の間検討しない。

SAG 委員の選出方針

- 国内体制との連携を考慮した人選を行うのがトッププライオリティー。
 - 専門分野は固体地球科学以外が望ましいが SAG 全体の中でのバランスもある程度考慮する必要がある。ただし、来年の SAG 委員は入れ替えが多いため、先手を打って委員を推薦すれば、SAG 全体の中でのバランスはそれほど考慮しなくてもよいかもかもしれない。
- 掘削プロポーザル作成・計画実施への支援(経済面以外)
 - ワークショップや掘削プロポーザルを作成していくにあたって実務的にどのようなことがあるかなどをまとめたガイドブックのようなものがあると、新しくプロポーザルを書こうとしている人にとって有益である。
 - 9 月いっぱいをめどに作成を行い、その後随時追加する形で更新していく。
 - 掘削プロポーザルのブラッシュアップに向けた国内レビューを行うための提出期限を 11 月 15 日とする。
- 今後の具体的な活動について
- 陸上掘削ワークショップ
 - 2013 年末までに ICDP の科学計画の策定に関するワークショップ (Science Conference) が開催される予定であり、それに向けて国内でワークショップを開催することを計画している。
 - 現在作成中の地学雑誌特集号の内容を中心として開催する。この他、Science Conference に備えて、各分野で次に行うサイエンスに関すること、及び実際のターゲットとしてどのようなものがあるかについても議論を行う。
 - ▶ 例えば、山間盆地の湖沼堆積物などは面白いトピックとなりそうである。
 - 当初、IODP 部会と合同で開催することを想定したが、タイミングによっては陸上掘削部会単独で開催になる可能性もある。単独開催の場合は、東大地震研究所を会場とする。
 - 開催のタイミングに関しては井龍部会長が IODP 部会の川幡部会長に相談し調整を行う。調整の結果は後ほどメールにて執行部に相談。
 - 年度内を目標に開催する。
- ICDP ワークショップへの支援(主催者及び参加者)
 - JBBP の PI から支援の要請があった場合には要請に基づき支援の実施を検討する。
- ICDP Science Conference (2013 fall @ Potsdam)への準備
 - 2013 年内に開催される見込みである。
 - EC 議長による委員選出(?)により、Steering Committee が設置されるだろう。
 - 前回のよう Book の出版はしないことが EC 議長より宣言されている。
 - あまり何もかも含めて総花的にならないようにするべきで、少なくとも国内においては選択と集中をした方が良いのではないか。
 - IODP とは違い、ICDP の SAG では Science Plan に書いてあるかどうかはあまり気にしていないようで、個々のプロポーザルのサイエンスがどうかというのがポイントである。そのため、Science Plan に書かれているかどうかは問題ではない。
 - 同分野の異なるプロジェクト同士の交流が重要であるとの認識は国際的にもあるようだが、そのような交流を行うための核となる研究者や機関を決めることをこのワークショップで行うべき。
 - 日本の研究者のプレゼンスを示すためにもこのワークショップには積極的に人材を派遣したい。
 - 国内の研究者をこのワークショップに派遣したいため、JAMSTEC/CDEC に対して旅費の支援を求めたい。

- ・ 倉本に Conference の情報が入り次第、執行部に流す。

次回開催日程

- ・ 国内ワークショップの前に開催する。